

大阪市イノベーション促進評議会 令和元年度第1回 会議要旨

1 日時

令和元年 11 月 14 日（月曜日）13 時 00 分から 14 時 24 分

2 場所

大阪イノベーションハブ（O I H）

3 出席者

正城委員長、東委員、竹村委員、田中委員

事務局（馬越部長、松本課長、田原課長代理ほか）

4 議題

（1）令和元年度の大阪イノベーションハブの活動状況について

（2）その他

5 会議要旨

<議題（1）令和元年度の大阪イノベーションハブの活動状況について>

上半期の実績及び進捗状況にかかる事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見具申。

[主な発言内容]

- ・海外展開支援プログラムとして、実際に海外展開を支援するテックベンチャーと、大阪市として成長させたい産業との関連性について、整合が取れるように取り組みを進めて欲しい。
- ・シンガポールは「ハブ」なので、その先に何を指したいかのビジョンが大切。東南アジアのどんなマーケットを狙うのかを明確にして訪問する方が、次のステップに繋がる。
- ・大学の技術移転やマッチングイベントで、「すごい技術がある」という話だけで、「相手に何を求めるのか」を伝えていないケースがあるが、明確に発信しないと成果に繋がらない。
- ・海外ベンチャーを大阪で活躍させるという従来とは逆のパターンが民間主導で進み始めた。大企業との連携や海外事業者の日本進出は良い傾向である。
- ・ある程度の検証フィールドをグローバルに開放するとスタートアップの集積が進む。

- ・公共調達の開放については、大阪も色々な課題がある。間口を広げるやり方でマーケットを創らないと海外も寄ってこない。
- ・大阪から格安航空便が飛んでいるのはチャンス。「日本に来てスタートアップを始める」、「日本の大企業と繋がった方が帰国する際に、現地のリーダーとして活躍してもらおう」、といったストーリーを描いて人材流動を図る段階に来たと思う。
- ・東京や福岡だけではなく、鹿児島や札幌にも目を向ける必要がある。どのように「大阪の強み」を客観的に認知するのか、もう少し明確化したほうが良いと思う。
- ・地方の考え方も変わる。10年後、20年後には電車に乗って働きに行くこと自体がもう無いという話になる。その時の「大阪の機能は何か」という位置づけがまだ不明確。「大阪は何を提供できるか」を考える方が何か新しいアイデアが出るのではないか。
- ・地域のダイバーシティーを表出する仕掛けづくりに、OIHもぜひ取り組んでいただきたい。
- ・アメリカでは中学・高校からアントレプレナーシップ教育を行う公立学校が結構あり、校内で企業経営のような購買部や、ビジネス経営を疑似体験している。
- ・情報発信について、英語での発信が増えていて良いが、今後を考えると中国語での発信も検討してはどうか。